



へいざ疾々と促せば アラ口惜しや今日はまだ市に出てひさぐべき薪も樵らず 酒購わん代もなし  
 へ先ず暫し待ちたまへ行くく柴を拾ひとり酒を得て参らんと 合 麓をさして急ぎけるが 合  
 へ若むすみちに足滑らし忽ち前に伏し転ぶ 不思議やな石の中より湧出る水の色酒に似て香も高し  
 へ汲みて嘗むれば  
 へめでたき酒なり

二上り 合方アツテ へ夫れ

### 竹笛

へ孝は百行の本

スグ

へ酒は百葉の長とかや

チン、

ツクツク

ト、刻ミ出シニテ

序ノ舞

刻二

短地刻三

上テ打切

ウケ

サソウ三ツ地

地二打放地二高刻打切

甲三ツ地

ツツケ扣

短地

長地

結長地扣

へ松の尾の

トツシヤン

天 イヤ  
夕△天

竹笛 (ト)

へ神の恵みの有りがたき

へ袖ひじて結ぶ手の影さへ見ゆる山の井に

老いの姿も若水と映りけるこそ嬉しけれと空しき瓢とりあへず

へ鼓に代えて打ち囃す

へ浮かれ拍子に乗せられて

ドーンツ

ツーンツ テンツルレン、テレンツ テレンチンチリレン

テ

レ

ク

早間

ク

ク

天

△

ココカラ大間ニナル

ト、乞合

三丁目シカケ 上テ乞合二ド

高刻乞合

結乞合三ツ地

狂言羯鼓

△天

乞合二丁目クズシ上テ半打込

(大小入り)

高刻打切

結扣

(マッスグ上ゲル)

へ面白いとの

へ声も濁らぬ瀧の水 浮き立つ波の足取りは いつしか老いも忘れたり

へ実にまこと

チン、、、、

ハァ 天 / 天

付頭ヲロシマクリ 高刻刻二 上テヲロシ 打込

三段目

地三

ツツケ

打込

フイヤ

打下

結踊り

長地

長地ツメ

止め打込

天

夕△天

### 段切